

TWO-WAY

発行責任者: 石田 健司

編集責任者: 福田 智宏

HEADLINE

●「冷たい水が流れをつなぐモンゴル～モンゴル文化との交流&企画展～」 3/27開催

★「冷たい水が流れをつなぐモンゴル～モンゴル文化との交流&企画展～」 3/27開催



3月27日(土)13時より、本社8階において、「冷たい水が流れをつなぐモンゴル～モンゴル文化との交流&企画展～」が開催されました。当日は休みの日にも関わらず、ユニオン会員やその家族・友人を含めた当社で働く従業員やOBの方々、神鋼連合加盟組合の方々など200名を超える参加があり、小さなお子さんも多く参加され、にぎやかにはじまりました。

プログラムは2部で構成され、第1部では、大野実行委員長による主催者あいさつに始まり、福井篤史さん、溝口真二さん(播磨ブロック)からモンゴル国の紹介とユニオンが行ってきた第1次・第2次図書贈呈での交流の様子が紹介されました。その後、バトスレンさんによる馬頭琴演奏に続き、駐日モンゴル国特命全権大使R.ジグジッド氏の「最新のモンゴルの情勢と蒙日関係について」と題した基調講演が行われました。



↑図書贈呈団のモンゴルでの体験談に思わず笑いが・・・

基調講演を通じてR.ジグジッド大使からは、「日本は、モンゴル国の主要な支援国であり、モンゴル国の民主化移行期における目標達成に対して多大な貢献をされてきました」と感謝の意を述べられた後、今後の蒙日関係について、「これまでの両国の良好な関係を継続しつつ、民間レベルでの交流の拡大が重要であり、さらなる相互理解を深めるため、モンゴルから日本への留学生の派遣や日本からモンゴルへのビジネス視察団の派遣など人的交流に期待したい」とのメッセージが送られました。講演終了後に参加者からは「教育について大使のお考えを聞かせてください」や「モンゴルでの環境破壊についてお聞かせください」など質問があり、それぞれの質問に対してジグジッド大使は丁寧に答えられました。



↑R.ジグジッド大使



↑おそろおそろミルクティを飲む

第2部では、初めに実行委員のみなさんによる紙芝居「モンゴルの木」が行われ、参加者の子どもたちが舞台の前に集まり、紙芝居を楽しんでいる姿が見られました。続く、モンゴル留学生のサイハナさん、ガンバヤルさんによるモンゴル文化の紹介では、参加型のクイズ形式で行われ、「モンゴルミルクティの味付けは何でしょうか」とのクイズに対しては、実際にミルクティが会場へ運び込まれ、塩味のミルクティに子どもたちが顔をしかめる姿などもあり、会場からはたくさんのにぎわう声が聞かれました。

最後に、バトスレンさんによる「馬頭琴」と「ホーミー」の演奏、伊藤麻衣子さ



んによる「オルティンドー」と呼ばれる長唄が披露されました。馬頭琴から奏でられるやさしい音色、ホーミーと長唄の不思議で幻想的な音色に会場の参加者は時間を忘れるように耳を傾けていました。演奏終了後には、会場からスタンディングオベーションが沸き起こり、アンコールでバトスレンさんによる馬頭琴が演奏され、会場全体が大きな拍手で包まれながら全てのプログラムが終了されました。

←馬頭琴を弾くバトスレンさんと、オルティンドーを歌う伊藤麻衣子さん

会場では、モンゴル国フリーカメラマンのガンズリグさんの写真「イフガザル(大地)」とモンゴル国オブス県マルチン郡の子ども達が描いた絵画、そしてユニオンとモンゴル国とのこれまでの交流を紹介するパネルなどが展示されました。

参加したみなさんからは、「これまでモンゴル国についてほとんど知りませんでした。身近にモンゴル留学生と触れ合い、馬頭琴などの演奏を聴くことによって、モンゴル国の素晴らしさを肌で感じ、実際にモンゴル国に行ってみたくくなりました。」という感想が聞かれました。

また、実行委員からは、「今回は参加者ではなく主催者として企画・運営に携わり、当日はとても緊張しましたが達成感を味わうことができ貴重な経験となりました。」「パネルの作成や準備は大変でしたが、当日に参加者がパネルの前に立ち止まっている姿を見て、嬉しさが込み上げてきました。」という声がありました。



↑熱心にモンゴルの展示物を見るお子さんの姿も...

実行委員のみなさん

有村恒さん、大谷聡さん、神地泰宏さん、
三枝大輔さん、品川和明さん、島崎雄さん、
神出純一さん、竹田尚弘さん、田中克さん、
永野竜規さん、並木友里さん、藤澤卓さん、
細見優さん（五十音別）



詳細は後日に発行する要録集をご覧ください。

—END—